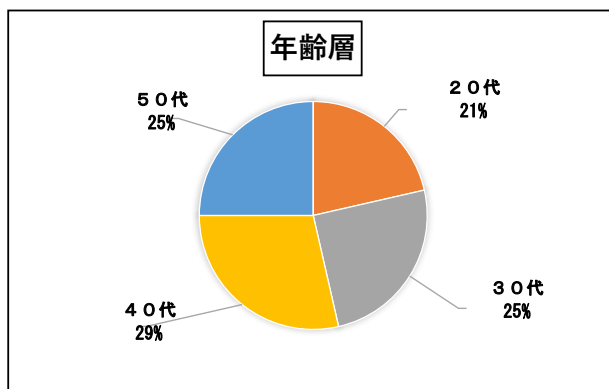
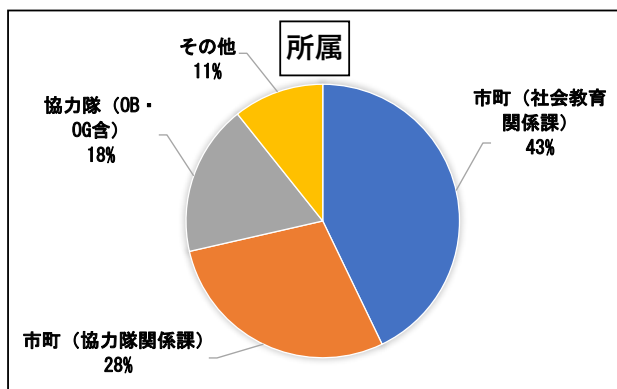
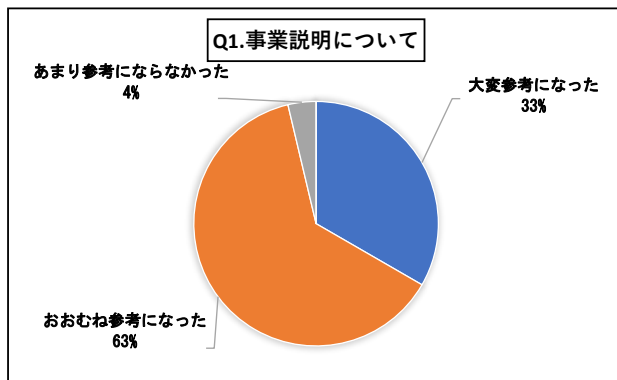


令和3年度「地域教育プロデューサー配置支援事業」市町等対象事業説明会 アンケート結果

○ アンケート回答者28名



Q1 事業説明について

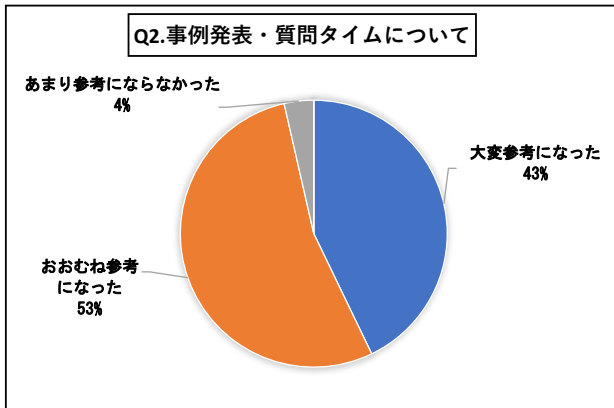


【理由】

- 教育の観点から地域と子どもとのつながりを強めていくことが今後の重要な課題だと理解できた。この事業を通して、県と市町の連携、また教育行政と住民との連携を深めることにより、地域と子どもをつなげられる地域おこしができればと思った。
- 地域教育プロデューサー配置支援事業の事業内容、今後の進め方について概ね理解することができた。
- 資料を交えて、詳しく理解することができた。
- 事業のイメージができた。
- 愛媛県教育委員会社会教育課の取組について説明いただき、地域おこし協力隊としての協力、連携等の方向性を理解することができた。
- 事業説明資料、事業説明とも要点が理解しやすくまとめられていて参考になった。
- 事業の例示が分かりやすかった。
- 事前に資料を共有していただいていたため、おおむね参考になった。
- 4月から協力隊担当となり、協力隊活動を勉強しているところで、その制度を活用して教育に特化した「地域教育プロデューサー」について参考になった。
- 今年度から担当となったため、制度についての確認ができた。
- 事業の全体像を知ることができ、おおむね参考になった。
- 学校と地域の橋渡し役としての地域プロデューサーの役割が理解できた。
- 教育分野で活動をする地域おこし協力隊のイメージがなかったので新鮮であった。
- 国主体でなく、県独自の取組ということで、教育振興についての愛媛県の思いや力の入れ具合が分かった。
- △県からの事業説明後、松野町での具体的な活動内容の事例発表がなされたため、イメージをつかむことができたが、学校側の意見があれば、なお、良かったと思う。
- △事業の内容はとても良いものだと感じたが、すでに着任している隊員に後から地域プロデューサーとなってしまうのは、その隊員にとって負担とならないか心配となった。
- △地域おこし協力隊は地域教育プロデューサーを導入するための手段の一つであって、協力隊担当者が参加する必要はなかったように感じる。
- △早足に感じられる部分があり、少々要点が掴みづらかった。
- ※本町においても、高校魅力化事業や全国募集をはじめる高校もあることから、地域との橋渡し役としての人材の必要性を感じた。
- ※地域での支え合いや、つながりが今後希薄化していく中、人任せではなく自分たちで地域を創っていくこと、若者の柔軟性ある意見も取り入れながら、戻りたくなるような地域づくりが必要と実感した。

○成果 △課題

Q2 事例発表・質問タイムについて



【理由】

- 他町の協力隊の活動事例を知ることができ参考となった。どのようなことも教育と結びつけて考えることの大切さを認識できた。
 - 事業の成果はもとより、担当された方の地域を想う心と情熱のすごさを感じた。
 - 松野町の好事例は、今後、県内での本事業の拡大を促進するものであると感じた。
 - 具体的な取組を聞き、自分の地域での可能性を思い描くことができた。他市町の質問も参考になった。定住でなくても流動人口でも成果があることや、3年間だから協力隊員になれるという話は印象に残った。
 - 協力隊の任務が、いかに任期後のライフスタイルにつなげられるかが具体的に変わった。
 - 学校と地域との連携はもとより、地域おこしとして魅力ある活動を行っていて大変興味深かった。
 - 「まずはやってみる」「大人が楽しむ」を自分も実践したいと思う。
 - 子どもをとおしたコミュニティの作り方は参考になった。
 - 地域の課題を可視化できるようIoT技術を活用して教育にその分野を取り入れる取組、子どもたち自身に松野町をどのようなまちにしていきたいかを考えてもらう取組、俳句という地域の特色を生かした取組、特産品づくり、地域住民の活動拠点づくりなど、多くの事業を通して、子どもたちを含め住民が一体となって地域のために考え、動き、住んでいるまちを大切にしており、住民の成長にもつながる取組だと感じた。
 - 4月から協力隊担当となり、他市町でどのような活動をしているか、非常に参考になった。
 - 短時間で多様な事例（3人の協力隊の方の活動）を伺うことができたから参考になった。
 - どのような事例があるか分かった。
 - 具体的な事例発表により詳しく理解することができた。
 - 松野町の教育行政における取組内容や、地域おこし協力隊の関わりなどのお話を聞くことができ、本町における今後の取組の参考となった。
 - 自分のミッションの参考になる発表が少なかったが、他地域の取組を知れたので良かった。
 - 生徒や地域をどう巻き込むかという質問で、「大人が楽しむ」「まずはやってみる」「子どもと仲良くなる」といった、行動力の大切さを学んだ。
 - 移住した協力隊が、実際に学校や地域の子どもたちとコミュニケーションをとり、結束力を高めた実績は素晴らしいと思った。
 - 子どもたちとの関わり方という質問で、普段からの関わりの中で関係性を作り、学校などでの出張授業などがスムーズにいきやすいということとおっしゃっており、日ごろの関係性構築も大事だと感じた。
 - 地域教育プロデューサーの具体的な役割、業務内容について参考となった。
 - 説明会前は地域教育プロデューサーということで敷居が高いとか固いイメージがあったが、事例発表を聞いて、自由な発想で全体の人間力を高められるような取組を行い、自分の居場所もつくることができれば良い、ということが分かりやすく説明されていて大変参考になった。
 - 不器男記念館や「せいけ」など子どもたちの地域に関わる機会や、地域について知る機会を与えることで地元へ愛着を持ってもらえる場所づくりが分かりやすく説明され、拠点づくりの必要性を感じた。
 - 採用でのポイントが聞けて、良かった。
 - 他市町の地域おこし協力隊の活動内容、採用基準を知ることができた。また、協力隊が地域コミュニティとのつながりをどのように持つかなど参考になることがたくさんあった。
 - 漠然としか捉えられていなかった地域教育プロデューサーの役割や具体的な活動内容について、松野町の実践発表から理解することができた。
 - 松野町の実践紹介があったおかげで、この事業の趣旨や効果を理解することができた。松野町の実践を聞かせていただいても良かった。逆に地域おこし協力隊を採用・活用する側の市町の姿勢次第であることも実感した。
 - 松野町の取組はいつ聞いても素晴らしいと感じた。今回の発表が、他の市町関係者等に刺激となりスムーズな事業展開へとつながってほしいなと思った。
 - △具体的な事例を踏まえた上で詳細な資料をもとに説明をいただき、参考になった。ただ、「せいけ」等後半の説明が駆け足になり、少し時間が少なかったように感じた。
- ※公営塾について西予市が導入予定とのこと。上島町を視察したが実現には行政からのトップダウンでの枠組み作りが必須と感じた。現場からのボトムアップや地域レベルの取組からでは非常に実現困難なものと思う。予算やノウハウ面の設立支援も必要なのではと思う。

○成果 △課題

Q3 さらに聞いてみたいこと

【質問・回答】

☆事業説明では、小学校以上との連携を想定しているように感じたが、幼稚園、保育園はこの事業にどう絡んでくるのか知りたい。

→今回の例として小学校以上のことが多かったと捉えられたかもしれないが、未就学児への関わりが地域の課題の一つとしてマッチするようであれば、もちろん本事業での取組として必要かと考える。今後、県内外の好事例を見つけ、紹介していきたい。（県社会教育課）

☆各OB隊員の方々が使用されている公民館等の会館使用料は優遇措置等はあるのか？また授業料は公的施設を使っているも、頂いて構わないのか？自身のミッションに取り入れられそうな場合、相談窓口はどこになるのか？

→それぞれの市町により異なると思うが、松野町の事例として、その使用内容にもよるが公的なものについては優遇があり、使用料はいただいていない。授業料について、徴収しても構わないがその場合使用料は発生する。相談窓口は、その使用したい施設、公民館等に直接でもよいし、町の担当職員に連絡したのもよい。（松野町発表者）